

「魅力ある会社・建設業界への想い」

～時代のニーズに合わせて挑戦～

岡田建設株式会社

代表取締役社長 岡田 司 氏

●インタビューー

名古屋中小企業投資育成株式会社
常務取締役 五十嵐 健二



岡田 司 氏 プロフィール

1977年 愛知県生まれ
2001年 神戸大学経営学部卒業
当社入社
2004年 取締役就任
2011年 代表取締役社長に就任
趣味：マラソン、ゴルフ

岡田建設株式会社 会社概要

本社所在地：愛知県豊川市白鳥町京次52-1
事業内容：住宅事業（分譲住宅販売）、総合建設
事業（土木、建設工事請負）、スポーツ
関連事業（グループ会社にて運営）
設立年月：1961（昭和36年）年7月7日
売上高：110億円（2020年グループ全体）
従業員数：280名（2020年グループ全体）

【五十嵐】1981年の投資以来、約40年のお付き合いとなります。永きに亘り、ご愛顧を賜りありがとうございます。

まずは、会社沿革や事業内容についてお聞かせ下さい。

【岡田】私の祖父が豊川市で土木事業を始めたことが当社の創業です。当時勤めていた建設会社にも協力してもらい円満に事業がスタートできたと聞いています。その後、私の父が社長となり、現在の当社の事業の柱である「建築」「住宅販売」、グループ会社の事業である「スポーツ施設運営」まで事業を拡大してきました。1961年の会社設立来、「地域密着」の精神を大切に事業展開してきました。

《時代の変化と共に》

【五十嵐】今年で会社設立60周年を迎えられます。

【岡田】会社設立当時は、土木事業からスタートし、ダムや橋といった社会生活に不可欠な社会基盤を整備していきました。次に、商業施設や病院、教育施設などの建築事業で「まち」の形成に携わりました。その後の経済成長により、個人が豊かになってきたため、戸建て住宅事業に進出してきたのが当社の事業の変遷です。時代と共に社会から求められていることも変化し、消費者のニーズも変わっていきます。それに真摯に伝えてきた結果が創業から黒字経営を継続出来ていることに繋がったと考えています。

【五十嵐】時代や顧客嗜好の変化に合わせて、挑戦してきたということですね。

【岡田】企業理念にも掲げているとおり、変化する時代・変化する業態の中でも一貫して変わら

ないもの、それは「フロンティアスピリットあふれる挑戦者魂」であり、ありきたりな判断に陥ることなく、常に時代の一步先を読む精神です。当社には未知の領域や困難な状況に出会っても、決して恐れずむしろそのような状況にやりがいを感じる企業風土があります。現状維持を求めず、より最適なサービスを一人一人の社員が追求することによって、お客様に対して新しい価値を創造することが私たちの企業理念の根源です。



＜土木工事施工事例＞

《戸建住宅事業へ進出》

【五十嵐】現在の事業の大きな柱である住宅販売事業、「パシフィックホーム」についてお聞かせ下さい。

【岡田】戸建住宅の事業を開始して今年で25年になります。年間250戸販売し、累計で5000戸超を販売してきました。企画・開発・設計・施工・販売・メンテナンスまで一貫して対応できる体制を整え、営業エリアは愛知県を中心とし東海3県で事業を行なっています。

戸建事業開始当時は、様々なお客さまに安くいい家を届けたいという思いから低価格路線を追求してきましたが、現在は顧客のニーズが多様化しているため、中・高価格帯にシフトして

います。コロナ禍の状況の中でお客さまも自宅に
いる時間が長くなっているという背景もあるのか
自宅にこだわりを持つようになっていきますので、
間取りや収納などを工夫して商品提案すること
で多くのご注文もいただいています。

【五十嵐】岡田社長自ら、購入する前に仕入す
る土地の現地確認をされていると伺いました。

【岡田】はい。やはり、戸建事業は立地が重要な
ので、仕入する土地は購入前に極力自分の目
で見えて事業判断をしています。当地域において
は、競合他社との競争も激しく、今日中に購入判
断をして欲しいという話も多いので、決裁者であ
る私が見に行くことでスピード感を持った対応を
心掛けています。



<分譲住宅施工事例>

《岡田建設の強み》

【五十嵐】愛知県の優良工事表彰を多く受賞
されていますね。

【岡田】はい。現在は愛知県または国土交通
省の公共工事が増えています。国や県の仕事
は、総合評価方式の入札で決められるため、
いかに良い仕事をしてきたかが評価されます。
優良工事表彰については工事案件毎の表彰
ですが、会社全体の評価にも影響するものと
理解しています。

国の施策「国土強靱化計画」にもある通り、
公共工事自体は安定的にありますので、地域
の建設会社の役割もこれまで以上に大きくなる
と思います。防災・減災の観点でも災害協力に
もこれまで以上に積極的に関わっていきたく
と思っています。

【五十嵐】ICTにも積極的に取り組んでいると
伺いました。

【岡田】はい。建設業界内でのICTの取組につ
いては愛知県内ではトップクラスだと自負してい
ます。建設業は慢性的な人出不足ですので、
建設現場における生産性を向上させ、魅力あ
る建設現場を目指すことは重要です。当社で
はICTの取組みを「i-construction(アイ・コンス
トラクション)」と呼んでいます。

i-constructionの3つの柱である「ICT技術
の全面的な活用」「規格の標準化」「施工時
期の平準化」により、建設現場における一人ひ
とりの生産性向上、企業経営環境の改善、建
設現場に携わる人の賃金水準の向上を図り、
「魅力ある建設業」を目指しています。

「ドローン」も業界の中では先駆けて導入し
ており、工事現場の状況を3次元データで管理

することで、設計図面と現場との不一致、土量算出等と準備段階で視覚的に現場を把握し、現場の情報共有や施工計画への反映に活用することができました。道路舗装工事についても人の手は最小限にして運営管理できる体制にしています。



<建築工事施工事例>

《ブランディング戦略》

【五十嵐】 昨年「経営企画部」を新設されたと伺いました。その狙いを教えてください。

【岡田】 業界全体に言えることでもありますが、人材確保・定着が重要な経営課題であると認識しています。以前は採用については総務部で担当していましたが、採用・定着により力を入れるため、現在、採用関係は経営企画部が担っています。インターンシップを積極的に活用し、ホームページでも当社社員や建設現場の紹介を通して一人でも多くの方に当社を知ってもらい、建設業界に興味を持って頂きたいと思っています。

これまで部署間の人材・仕事の面での交流が少なく、会社の一体感という意味ではやや希薄と感じていましたので、昨年「おかけんのわ」という社内報を新たに立上げました。今後とも

社員紹介や各部署の紹介など、様々な情報発信をしていきたいと思っています。

先程「優良工事表彰」についても会社の重点施策として取り組んでいるとお話ししましたが、社員のコミュニケーション能力向上も目的の一つです。表彰制度を積極的に活用し建設業の魅力を発信していきたいと思っています。



<社内報「おかけんのわ」>

【五十嵐】 まずは会社の取組を知ってもらうことがブランドを醸成することに繋がっていくということですね。

【岡田】 そうですね。昔は建設業自体のイメージも決して良くなかったもので、仕事は好きだけど、労働環境が家族に理解されずに残念ながら退社していく社員もいました。

そういう話を多く聞くようになってからは採用・職場環境改善に力を入れてきました。女性人材の登用にも力を入れていますので、現在20歳代の女性現場監督も活躍しています。女性も「モノづくりをしたい」と言って、当社に入社していますので、ICTの導入による現場環境の改善も追い

風になり、建設業にも女性の目が向いてきているのかなと思います。

今年度の新入社員は10名いますが、土木事業を希望している方のうち、3名は大学で文系を専攻していました。彼らを上手く育成することができれば、当社としては社員育成の一つの手法になると思っています。

従前は土木事業に配属する際は土木を学んできた人材を優先してきましたが、現場監督の慢性的な人材不足を解消するには、育成についても一からやるぐらいの気概がないとダメなのかなと思っています。



＜名古屋支店＞

＜建設業・岡田建設の今後＞

【五十嵐】 建設業界の今後に対する想いはいかがでしょうか。

【岡田】 私は、業界の活動として、愛知県建設業協会理事、中部建設青年会議の愛知県支部長を務めています。中部建設青年会議は、長野、岐阜、静岡、愛知、三重の中部5県内の建設事業に従事する若手経営者を中心として、地域の活性化、地域社会の発展に寄与することを目的とした団体です。具体的な活動の一つとして、「国土をつくる人写真展」という企画で、地域の写真部に所属する学生に、現場で働く人や建設現場の写真を撮ってもらう活動を定期的に行なっています。地道な活動ですが、少しずつ認知され業界全体

のイメージアップに繋がれば良いと思います。



【五十嵐】 最後に、貴社の更なる発展に向けた課題・戦略はいかがでしょうか。

【岡田】 土木事業から始まり、時代に合わせて建築事業、住宅事業、スポーツ事業と展開してきました。正直に申し上げて10年先のことは分かりませんが、どういう世の中になっているのか逆に楽しみな部分もあります。「こだわりすぎない経営」を心掛けて、時代のニーズに合わせて事業をやっていたらと考えています。

【五十嵐】 ありがとうございます。今後もさらに発展されることを祈念しています。



＜本社外観＞